

第8章 教職員の職能開発

半田 純子¹, 本間 千恵子²

本章では、日本におけるファカルティ・ディベロップメント (FD) とスタッフ・ディベロップメント (SD) についての研究報告とともに、サイバー大学で取り組んできた FD・SD 活動の実績について紹介する。

2008 年度から大学の FD 研修が義務化されたことを受け、近年日本の大学が積極的に取り組んでいることが報告されている。文部科学省の調査結果によると、平成 19 年度の日本の大学における FD 活動の取り組み状況は、742 大学のうち 664 大学 (89.5%) が実施しているとのことであった。表 1 は、文部科学省の調査結果を FD 活動の実施内容別にまとめたものである (表 1)。教育方法改善のための講演会の開催が約 60% を占め、次いで新任教員以外の教員のための研修会、新任教員のための研修会となっている。しかし、教員相互による授業評価を行っている大学は、15% に留まっている⁽¹⁾。

表 1 FD 活動の内容別実施状況 (文部科学省 2009)

FD の具体的な内容	大 学	%
教育方法改善のための講演会の開催	446	60.1
新任教員以外の教員のための研修会	310	42.8
新任教員のための研修会	287	38.7
教員相互の授業参観	285	38.4
教育方法改善のための授業検討会	257	34.6
教員相互による授業評価	111	15

FD 研修の意義として、個々の教員が教授法の向上を図るのは、容易なことではないため、研修会などで、専門的な知見を得ることにより、教員は、自身の問題点を認識したり、改善策を見出したりすることができるというような点が挙げられている⁽²⁾⁽³⁾。

また、文部科学省の調査報告によると、SD を実施している大学は、560 大学 (75.4%) であるという。SD 活動の実施状況の中からトップ 3 を抜粋して表に示した (表 2)。ここでは、大学団体等関係機関・大学が実施する研修会に職員を計画的に参加させるというのが、60% 以上を占めている。次いで、大学において職員に対する階層別、資格別、分野別等の研修を実施しているというのが、約 38% となっている⁽⁴⁾。

1 IT 総合学部・准教授

2 コンテンツ制作センター・インストラクショナルデザイナー

表2 SD活動の内容別実施状況（文部科学省2009）

SDの具体的な内容	大 学	%
大学団体等関係機関・大学が実施する研修会に職員を計画的に参加させている	462	62.2
大学において職員に対する階層別，資格別，分野別等の研修を実施している	284	38.2
職員の自発的な研修会への参加や大学等への通学に対し，一定の条件の下で経費の支援をおこなっている	221	29.8

本学においてもFD委員会が中心となり，インストラクショナルデザイナーらと協力しながら，FD・SD活動を推進している。本章では，本学のFD活動として，FD研究会の実績とFDコンテンツの概要を説明する。次に，本学のSDの取り組みとしてメンター研修の概要についてまとめる。最後に，インストラクショナルデザイナー研修の概要について報告する。

1. 教員研修

1.1 FD研究会

サイバー大学では，FD活動の一環として，2009年度末までに，3回のFD研究会を開催してきた。まず，第1回は，本学において効果的な授業設計手法を確立していくことを目的として，インストラクショナルデザインの観点から，授業設計のポイントとプロセスを熊本大学大学院の鈴木克明先生に講演して頂いた。

第2回は，本学のFD活動の指針をより具体化するために，事例から知見を得ることを目的として，放送大学ICT活用・遠隔教育センター教授の苑復傑先生に「ICTを活用するためのFD——アメリカ大学のFD事例——」というテーマで，米国におけるFD活動の事例について紹介して頂いた。

第3回は，授業運営における効果的なコミュニケーションのテクニックやスキルの向上を目指し，山形大学教育企画室の松田岳士先生に「効果的な授業運営——eラーニングにおけるコミュニケーション——」というテーマで講演して頂いた。以下に，本学で実施したFD研究会の開催概要を示す。

FD研究会 開催概要

第1回

講師：鈴木克明先生（熊本大学大学院教授・教授システム学専攻長）

講演テーマ：「授業設計のポイント：インストラクショナルデザイン」

議事次第

1. 授業設計苦労話 体験談（FD委員長 野崎昭弘先生）

2. 授業設計のポイント：インストラクショナルデザイン（鈴木克明先生ご講演）
3. 質疑応答

第2回

講師：苑 復傑先生（放送大学 ICT 活用・遠隔教育センター教授）

講演テーマ：「ICT を活用するための FD — アメリカ大学の FD 事例 —」

議事次第

1. ICT を活用するための FD — アメリカ大学の FD 事例 —
2. 質疑応答

第3回

講師：松田岳士先生（山形大学 教育企画室）

講演テーマ：「効果的な授業運営 — eラーニングにおけるコミュニケーション —」

議事次第

1. 効果的な授業運営 — eラーニングにおけるコミュニケーション —
2. 質疑応答

1.2 VOD 方式による研修

サイバー大学では、FD 活動として講演会の開催だけでなく、VOD (Video on Demand) 方式の「FD コンテンツ」と呼ばれるオンライン研修も行っている。この FD コンテンツは、大学の LMS (Learning Management System) を使用した研修で、サイバー大学における効果的・効率的・魅力的な授業コンテンツの制作、授業運営の方法について理解を深めることを目的としている。また、大学の LMS を使用して受講することによって、サイバー大学で学んでいる学生の受講環境を体験することも目的に含まれている。教員にこうしたオンライン・コースを提供している大学は、2007年に国内の高等教育機関を対象に行われた調査によると、ICT を活用した FD を実施している機関のうちわずか 0.9% であった⁵⁾。オンライン・コース研修は日本ではあまり取り組まれていない方法であるが、サイバー大学は全ての授業がオンラインで行われているため、本学の FD 活動においてオンラインで研修を行うことは、知識やスキルの習得だけではなく、学生と同じ環境で学ぶ疑似体験をすることができ、学生の視点に立った教授活動に活かすメリットがある。さらに、オンデマンド方式のため、教員はいつでも研修を受けることが可能である。

学生と同じ環境で学ぶため、FD コンテンツの構成は教養科目の形式に合わせて全 8 回構成となっている。各回は 4 章構成、各章の VOD コンテンツは 10~15 分程度、毎回約 60 分の VOD コンテンツを学生用の LMS を使用して受講する。また、VOD コンテンツに関する小テストが各章から 2 問以上、計 8 問以上出題され、教員は毎回小テストを受験することが求められている。これは、サイバー大学の授業では授業コンテンツに関する小テストを各章から 2 問以上、計 8 問以上出題することがガイドラインとなっているため

ある^⑥。

FD コンテンツはFD 委員会監修のもと学内のコンテンツ制作センターで制作した。まず、サイバー大学のFD 活動として適切な学習目標・内容を検討した。学習目標を明確にするために参考にしたのは、『大学力を創る：FD ハンドブック』^⑦によるFD 活動の12項目である。

- ① 大学の理念・目標を紹介するワークショップ
- ② ベテラン教員による新任教員への指導
- ③ 教員の教育技法（学習理論，授業法，講義法，討論法，学業評価法，教育機器利
用法，メディア・リテラシー習熟度）を改善するための支援プログラム
- ④ カリキュラム改善プロジェクトへの助成
- ⑤ 教育制度の理解（学校教育法，大学設置基準，学則，学習規則，単位制度，学習
指導制度）
- ⑥ アセスメント（学生による授業評価，同僚教員による教授法評価，教員の諸活動
の定期的評価）
- ⑦ 教育優秀教員の表彰
- ⑧ 教員の研究支援
- ⑨ 大学の管理運営と教授会権限の関係についての理解
- ⑩ 研究と教育の調和を図る学内組織の構築の研究
- ⑪ 大学教員の倫理規定と社会的責任の周知
- ⑫ 自己点検・評価活動とその利用

（『大学力を創る：FD ハンドブック』，大学セミナー・ハウス，1999，p.17）

この12項目から特に①～⑥⑪を中心に，学習目標を設定することとなった^⑧。FD コンテンツ全体の学習目標と，回ごとの学習目標を以下のように決定し，受講対象教員は，専任教員及び専門科目を担当する客員教員とした。

【FD コンテンツの学習目標】

- ・サイバー大学の教育システムを経験することにより学生の受講環境を理解する。
- ・授業コンテンツ制作・授業運営に関する基礎知識を身につける。
- ・大学の理念に基づいて教育活動を行うことができる。

【回ごとの学習目標】

- 第1回：FD についての基礎知識を理解する。
- 第2回：大学の理念及び専任教員が果たすべき役割を理解する。
- 第3回：オンライン大学で行う教授活動の特徴を理解する。
- 第4回：カリキュラム構成の概要を理解する。
- 第5回：授業設計書の重要性について理解する。
- 第6回：効果的で魅力的な授業コンテンツの作り方を理解する。

第7回：効果的な授業運営方法について理解する。

第8回：授業コンテンツ改善，授業運営改善ための取り組みについて理解する。

これらの学習目標を達成するために設計したオンライン研修の概要を表3に示した。設計をもとに，サイバー大学の授業コンテンツ制作と同じプロセスで開発を行った。2009年7月より，2,3ヶ月に1回の頻度でリリースをしており，2010年4月現在，第3・5・7・8回が配信されている。

第5回「授業設計書の書き方」では，第1・2章で授業設計書の重要性や書き方，第3・4章で授業設計書に記入する小テストの具体例について説明している。サイバー大学では授業の制作にあたってインストラクショナルデザインの手法を導入しており，授業設計書

表3 FD コンテンツ計画書

	回	回タイトル	内 容	FDハンドブックとの対応
サイバー大学とFD	第1回	FD とは何か	① FD って何？ — 定義と範囲 — ② FD はなぜ必要？ — 社会の変化と大学改革 — ③ FD の先進的取り組み ④ サイバー大学の取り組み	①～⑫ 概要説明
	第2回	サイバー大学とは	① 学長からのメッセージ ② 学生のキャンパスライフ ③ 教員の役割 ④ 組織体制	① 大学の理念・目標を紹介するワークショップ ⑪ 大学教員の倫理規定と社会的責任の周知 ② ベテラン教員による新任教員への指導
	第3回	オンライン大学の事例と展望	① 日本のオンライン大学の事例 ② 韓国のオンライン大学 ③ 米国・英国のオンライン大学 ④ オンライン大学で教えることとは	③ 教員の教育技法を改善するための支援プログラム
	第4回	カリキュラムと教育の質保証	① カリキュラム ② コンピテンシー ③ 基礎講義から卒業研究まで ④ 履修指導など	④ カリキュラム改善プロジェクトへの助成 ⑤ 教育制度の理解
授業の進め方	第5回	授業設計書の書き方	① 授業設計書の重要性 ② 全体/回別計画書の書き方 ③ 小テストの意義 ④ 小テストの具体例	③ 教員の教育技法を改善するための支援プログラム
	第6回	授業コンテンツの作り方	① パワーポイントの見せ方(1) — 基本と導入 — ② パワーポイントの見せ方(2) — 展開とまとめ — ③ サイバー大学における著作権処理(1) — 許諾と引用の要件 — ④ サイバー大学における著作権処理(2) — 引用事例と学習資料 —	③ 教員の教育技法を改善するための支援プログラム
	第7回	授業運営	① 授業運営上の留意点 ② 演習科目の運営 ③ メンターの職責と協働 ④ ディベートの効果的な運用	③ 教員の教育技法を改善するための支援プログラム
	第8回	授業評価と改善	① 学生授業評価アンケートの意義 ② 学生授業評価アンケートの概要 ③ 授業評価アンケート結果に基づく授業の見直し ④ 授業改善のアイデア	⑥ アセスメント ③ 教員の教育技法を改善するための支援プログラム (② ベテラン教員による新任教員への指導)
<p>【授業コンテンツ構成】 各回4章構成 【授業コンテンツ資料】 パワーポイント，収録映像，大学の記録用映像を利用，学習資料配布 【学習方法】 授業コンテンツの視聴，小テスト 【使用するLMS】 サイバー大学LMS……学生用ページを使う。FDコンテンツ用のID，パスワード発行</p>				

を作成することが全教科必須となっている。そのため、この回では授業設計書作成への理解を深めることを目標としている。

第7回「授業運営」では、オンラインでの効果的な授業運営について理解することを目標としている。第1章では、学期中に教員が行うことを示すとともに、授業運営上の留意点を説明している。第2章では、サイバー大学における演習科目の運営形式や運営上の工夫を提示している。第3章では、メンターの職責と教員がメンターと協働する際の留意点について説明している。第4章では、ディベートルームの書き込み数と授業評価アンケート得点との関係を説明し、ディベート運営の具体的な工夫をインタビュー形式で紹介している。

第8回「授業評価と改善」では、学生授業評価アンケート結果を活用して授業の改善を行うことができるようになることを目標としており、第1・2章で学生授業評価アンケートの意義と概要について説明し、第3・4章では授業評価アンケートの結果に基づいた授業の見直しや授業改善のアイデアを説明することによって、評価から改善についての流れを示している（表4）。

第8回第4章では、授業改善をする際のアイデアを継続的に得ることができるよう、授業の参観を勧めている。文部科学省によると、FDを実施している664大学のうち、285大学が教員相互の授業参観を行っている⁽⁹⁾。サイバー大学では学生専用サイトを用いて全授業を教員に公開しており、授業コンテンツ、小テスト、学習資料、ディベートルーム、Q&Aなどをいつでも閲覧することができる。全教員が同じLMSを使っていることから、他の教員がどのような授業運営の工夫をしているのか、アイデアを得ることができる。授業参観の機能として、相手の教員には授業コンテンツの視聴、小テストの受験など、授業参観をしたことがわからないようになっている。この授業参観の主な長所としては①事前の調整なく、いつでも参観できる、②参観されていることがわからないため、ありのままの授業を参観できる、③参観する心理的抵抗が少ない、といったことがあげられる⁽¹⁰⁾。授業参観を十分にFD活動として活かすため、FDコンテンツ第8回では、授業参観をしても相手に参観履歴が表示されないこと、授業参観から授業改善のアイデアを得ることができることを説明し、その活用を勧めた。

FDコンテンツの効果については、教員からのアンケート結果等を分析することによって検証していく。FDコンテンツの改修を含め、今後のFD活動に活かしていく予定である。

第8章 教職員の職能開発

表4 第8回別計画書

第8回	回 タ イ ト ル			
	授業評価と改善			
1. 回学習目標	学生授業評価アンケート結果を活用し、授業の改善をおこなうことができる。			
2. 章学習目標	1. 学生授業評価アンケートの意義を説明できるようになる。 2. 日本における学生授業評価アンケートの実施状況を説明できるようになる。			
	3. 学生授業評価アンケート結果を正しく読むことができる。 4. サイバー大学の授業評価アンケートの傾向を説明できる。			
3. 章 構 成	章タイトル	講 義 概 要	対 応 す る 章学習目標	使用する資料 (内容・媒体・数量等)
	第1章	学生授業評価アンケートの意義	学生授業評価アンケートを実施する意義について説明する。	1, 2 PPT 15枚程度
第2章	学生授業評価アンケートの概要	学生授業評価アンケートの概要について説明する。	3, 4	PPT 15枚程度
第3章	授業評価アンケート結果に基づく授業の見直し	授業評価アンケート結果を利用して、授業を見直す方法を説明する。授業改善計画の記入のポイントを説明する。	5, 6	PPT 15枚程度
第4章	授業改善のアイデア	学生専用サイトを用いた授業参観の方法を説明する。教材、授業運営のアイデアを事例を用いて説明する。	7, 8	PPT 15枚程度
4. 課 題	<p>小テストを以下の内容で実施する。</p> <p>〈問 題〉</p> <p>授業評価アンケートのわが国における実施状況について、説明した以下の文章を読んで、()に入る言葉の組み合わせとして正しいものを選んでください。</p> <p>平成18年度、全学的に取り組んでいる大学は(a)程度。授業評価結果を授業改善に反映させる組織的な取り組みが行われているのは、(b)程度。授業評価アンケート結果の実施割合に比べ、組織的な取り組みが行われている割合は(c)。</p> <p>1. a 100% b 70% c 低い 2. a 70% b 50% c 低い 3. a 50% b 70% c 高い 4. a 50% b 30% c 低い</p> <p>【正解&解説】 正解2。授業評価アンケートは全学的な取り組みとしては7割程度の大学で行われていますが、授業改善に反映させる組織的な取り組みが行われているのは半数に留まっています。授業評価アンケートを実施するだけでなく、その結果を改善につなげる仕組みの整備が進められています。</p> <p>〈問 題〉</p> <p>サイバー大学では、学生専用サイトを用いて全授業を教員に公開しています。学生専用サイトから教員が他の授業を閲覧する際、次の機能のうち間違っているものはどれですか。</p> <p>1. ディベートルームへの書き込みはできない。 2. 小テストの正解と解説は、視聴(出席認定)期間後に表示される。 3. 授業を視聴したり小テストを受験すると、アクセスしたことが相手の教員にわかる。 4. 学生に公開中の授業回のみ閲覧できる。</p> <p>【正解&解説】 正解3。授業を見に行っても、相手にはいつどの教員がアクセスしたのかわからないようになっていきます。どのように授業を工夫したら良いかわからない場合は、他の教員の授業を見て授業運営のアイデアを得てみると良いでしょう。</p>			
5. 参 考 資 料				

(小テスト一部抜粋)

2. 職員研修

2.1 メンター研修

本学では、学期開始前に授業運営支援者であるメンターに対して、必ず各学部で学期前研修を行っている。研修内容は、学部により多少異なるが、どの学部においても、メンター研修用コンテンツを活用するオンライン研修と対面研修にて、毎学期実施している。また、経験のある既存メンターと新人メンター用に、研修内容を分け、スキルに適した研修を行っている。さらに、学期中は、学部ごと定期的にメンターミーティングを開催し、情報や問題を共有するだけでなく、効果的なメンタリングについて議論したりしている。遠隔地にいるメンターは、オンライン会議システムを通じて参加している。実際どのような内容の事前研修とミーティングが開催されたか、以下に2009年度前期世界遺産学部の例を記載する。表5に、学期前研修の内容をまとめたものを掲載する。また、表6には、学期中のメンターミーティングの内容を示す。

表5 学期前メンター研修の内容

	研 修 内 容
学期前研修1	<p>【既存メンター】前学期の研修の再確認，前学期の授業運営状況の再確認，担当教員への連絡</p> <p>【新人のみ】担当教員への連絡，講義形式（eラーニングコンテンツ＋問題解答）</p> <p>① eラーニングとは（コンテンツの視聴15分）</p> <p>② 学習支援・指導補助の重要性（コンテンツの視聴15分）</p> <p>③ メンタリングのアクションプラン（コンテンツの視聴15分）</p> <p>④ メンターの学習支援・指導補助業務（コンテンツの視聴15分）</p> <p>⑤ 研修内容に関する問題解答30分（15問全問正解で合格。何度でも受験可能）</p>
学期前研修2	<p>【全 員】集合研修</p> <p>メンター業務アクションプランについて，業務報告の実施法について，グループウェアCUBEの利用法について，演習科目の運営について</p> <p>その他注意事項の説明</p> <p>【新人のみ】</p> <p>演習形式（eラーニング＋問題解答）</p> <p>① メンタリングのシミュレーション（コンテンツの視聴5分）</p> <p>② シチュエーション別の記述式問題17問に解答</p>
学期前研修3～5	<p>【既存メンター】担当教員との打ち合わせ，メンター業務アクションプランの作成，授業準備</p> <p>【新人のみ】担当教員との打ち合わせ，メンター業務アクションプランの作成，授業準備</p> <p>研修期間中の業務報告の提出</p> <p>演習形式</p> <p>① 授業準備</p> <p>② シチュエーション別の記述式問題17問に解答</p> <p>講義＋演習形式（演習科目担当メンターのみ）</p> <p>① 演習科目特有のメンター業務の理解</p> <p>② 著作権に関する問題に解答</p> <p>③ シチュエーション別の記述式問題7問に解答</p>

第8章 教職員の職能開発

表6 定例ミーティングでの研修内容

	ミーティング & 研修内容
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・開講後に生じた問題点等についての質疑応答 ・アクションプランについて ・業務報告について ・メンター業務の円滑な連携のための Skype 導入について ・その他連絡事項
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・開講後に生じた問題点等についての質疑応答 ・督促メールについて ・連絡の付かない学生への対応について ・履修放棄とみなす基準について ・超過勤務について ・その他連絡事項
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・開講後に生じた問題点等についての質疑応答 ・ドロップアウト対策について ・ディベートルームの運用について ・期末試験システムについて ・その他連絡事項
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・開講後に生じた問題点等についての質疑応答 ・ドロップアウト対策について ・現状報告（各メンターより） ・その他連絡事項
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験／レポートについての質疑応答 ・本人確認の説明 ・演習における期末試験／レポートについて ・連絡の取れない学生について ・その他連絡事項
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・アクションプラン ・運用結果の分析（全科目の統計処理値と自己科目との比較） ・改善案の作成 ・業務報告 ・授業結果の分析（全科目の統計処理値と自己科目との比較） ・授業運営に関する改善案の作成
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ① 教務主任代行より <ul style="list-style-type: none"> ・メンターの役割について ・就業最終週について ・春学期の振り返りと次学期に向けた改善計画について ・卒業研究に向けたメンタリングについて ② 春学期の業務総括 <ul style="list-style-type: none"> ・フォローアップ研修レポートについて ・授業運営におけるディベートの重要性の再確認 ・アクションプランについて ・アクションプランと業務報告の秋学期に向けた改善について ③ 秋学期のまでの間の諸注意事項

2.2 VOD方式によるメンター研修

ここでは、研修で使用されるVOD方式のメンター研修用のコンテンツについて説明する。このコンテンツは、本学のメンターとして、必要不可欠な知識とスキルの基礎力を習得できる内容となっている。コンテンツにおける学習目標は、「eラーニングにおける学習支援活動を概観し、本学が求める学習支援者および、指導補助者としてのメンターの役割について説明できるようになる」である。表7にコンテンツの章タイトルとコンテンツの内容を示している。

第1回のコンテンツの構成は、第1章イントロダクション、第2章eラーニングとは、第3章学習支援・指導補助の重要性、第4章メンタリングのアクションプラン、5章メンターの学習支援・指導補助業務となっている。図1は、第1回のコンテンツのスクリーン

表7 メンター研修コンテンツの内容

回	章タイトル	内 容
第1回	1. イントロダクション	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標 ・学習の進め方 ・確認テストと合格基準
	2. eラーニングとは	<ul style="list-style-type: none"> ・eラーニングとはどのようなものかについて。その概要。 ・対面授業とeラーニングによる非対面授業との違い。 ・非同期学習および非同期協調学習。 ・eラーニングにおける各プロフェッショナル職種の概要
	3. 学習支援・指導補助の重要性	<ul style="list-style-type: none"> ・自学自習を行う上で重要となる学習支援活動。 ・成人学習理論の視点からの学習支援活動が必要であること。 ・コンピュータを介した学習環境下において留意すべき学習支援活動 ・サイバー大学における学習支援職務の各領域。
	4. メンタリングのアクションプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・本学が目指すメンタリングの目標 ・メンタリング活動の3つのポイント <ol style="list-style-type: none"> ① 学習者のモチベーションを高めること ② 学習者にとってのよき学習コーチであること ③ スケジュール管理を支援すること ・メンターがとるべき学習者との関係について ・学習者の個人情報保護、著作権侵害、誹謗中傷問題に対する事前の対策や措置をとる必要があること。
	5. メンターの学習支援・指導補助業務	<ul style="list-style-type: none"> ・サイバー大学におけるメンターの学習支援・指導補助業務の各内容 ・サイバー大学における主メンターと補助メンターの役割 ・授業開始前・開講時、それぞれにおける業務の内容
第2回	メンタリングのシュミレーション	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートの説明
第3回	期末試験システム問題登録の手順	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験システム問題登録の手順
第4回	FD研究会での講演コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会（2010年度：山形大学の松田岳士先生の「効果的な授業運営——eラーニングにおけるコミュニケーション——」

第8章 教職員の職能開発

ショットである。

学期前研修で、全メンターが必ず作成するものの一つに、アクションプランがある。これは、メンター研修コンテンツの第1回の4章の学習内容である。図2として、アクションプランの基本フォーマットを示した。アクションプランの目的は、業務を効率的に行うために、メンターとして行うべき共通の業務が記載されているフォーマットに、担当科目で行うべき業務を記入していき、学事日程に沿って、効率的に業務を遂行するためである。

1回	2回	3回	4回
第1回の開講期間：2010年4月1日(木)から2011年3月31日(木)まで			
※ 開講期間を過ぎても最終回が終わるまで、視聴することは可能ですが遅刻扱いとなります。 ※ 小テストがある場合は、全ての章を視聴しないと小テストを受験することはできません。 ※ Q&Aは、受講期間中のみ書き込みが可能です。			
第1回の授業		<input checked="" type="radio"/> 視聴 <input type="radio"/> 遅刻 <input type="radio"/> 未受講 <input checked="" type="checkbox"/> 欠席	
章	状況	授業の内容	視聴
1章	<input checked="" type="radio"/>	イントロダクション	<input type="button" value="視聴する"/>
2章	<input checked="" type="radio"/>	eラーニングとは	<input type="button" value="視聴する"/>
3章	<input checked="" type="radio"/>	学習支援・指導補助の重要性	<input type="button" value="視聴する"/>
4章	<input checked="" type="radio"/>	メンタリングのアクションプラン	<input type="button" value="視聴する"/>
5章	<input checked="" type="radio"/>	メンターの学習支援・指導補助業務	<input type="button" value="視聴する"/>
小テスト	第1回に出題された小テストがあります + 受験する		
レポート	第1回のレポートはありません		
※追加プログラムの自動インストールができず、講義の受講ができない場合は、こちらのページにあるプログラムをインストールした後に受講してください。			

図1 メンター研修用コンテンツ第1回

	A	B	C	D	E	F	G	M	N	O	P	Q	R
1	世界遺産学部 アクションプラン・テンプレート												
2													
3	メンター名:												
4	担当科目名: 基礎講義(****)、基礎演習(****)、専門												
5	教員名:												
6	受講者数: 基礎講義(***名)、基礎演習(**名)、専門講義(
7													
8	日付	曜日	開講期間	共通スケジュール				実施	*科目名を記入	実施	教員補助業務	勤務時間帯	備考(発生した問題とその対応状況など)
9				内容						依頼された業務の内容			
11	4/1	木	スタートアップ	《勤務開始日》									
12	4/2	金		《メンター研修会》 新任メンター: 9:30~ 継続メンター: 13:00~14:30									
13	4/3	土											
14	4/4	日											
15	4/5	月			動作確認報告締切日: 第1回								
16	4/6	火		課題設置最終確認: 第1回									
17	4/7	水		《第1回開講》 アクションプラン: 提出 動作確認報告/演習アップロード 依頼の締切日: 第2回									
18	4/8	木											
19	4/9	金											
20	4/10	土											
21	4/11	日											
22	4/12	月											

図2 アクションプランのフォーマット

第2回では、メンタリングのシミュレーションとして、メンター業務で実際によく直面するようなシチュエーションを提示し、実際にメッセージを書いてみる演習レポートの課題を行っている。図3は、この課題レポートの一部である。このような演習を事前に行うことにより、メンターが学生からの様々な質問に適切に回答できるようなスキルを身につけることを目的にしている。

2009年春学期メンター研修会 【メンタリング研修問題】

メンタリングをシミュレーションし、メンタリングスキルの向上が目的です。
※特にどのような授業が指定のない場合、自分の担当する授業を想定してください。

シチュエーション7：授業から逸脱する質問

世界遺産学部佐藤さんから「今度パソコンを買おうと思うのですが、何かお勧めありますか?」というメールが来ました。質問が授業から逸脱していますが、学生を傷つけないように、授業と関連付けながら返事をしてください。

<回答>

シチュエーション8：欠席がちな学生へのメール

欠席が続いている学生がいます。この学生に出席を促すようなメールを個別に送ってください。

<回答>

図3 課題レポート問題例

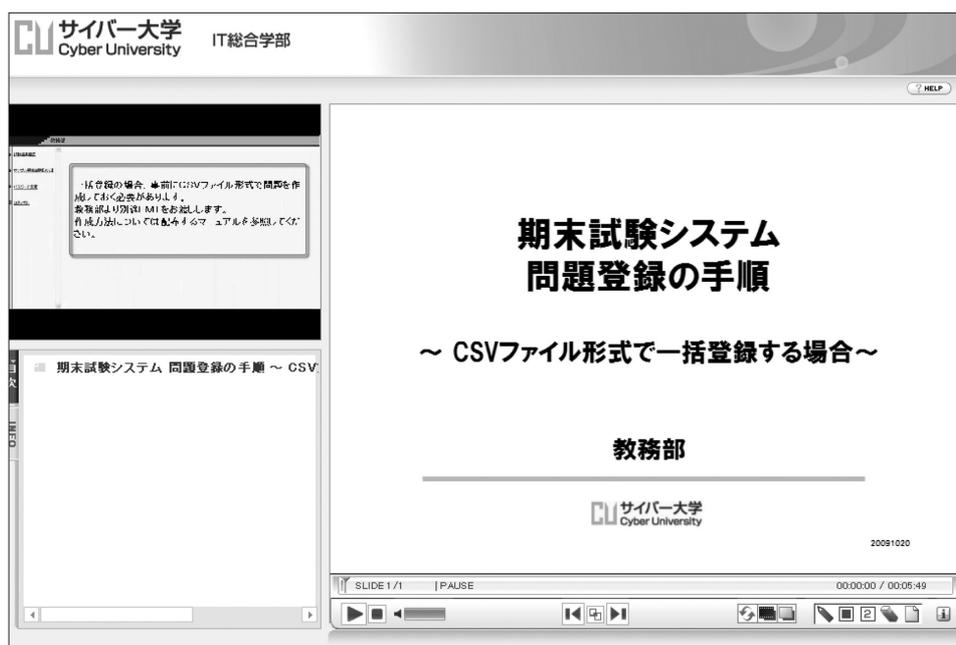


図4 期末試験システム問題登録の手順のコンテンツ

第1回と第2回の内容は、新人メンター研修で活用され、コンテンツ視聴後には、確認テストを受験し、全問正解で合格することを義務付けている。

第3回では、期末試験システム問題登録の手順を説明し、期末試験システムの操作方法を学ぶことができるような内容になっている。図4として、このコンテンツのスクリーンショットを掲載した。第3回は、継続メンターも含め、全メンターが期末試験問題登録の時期に必要な応じて、視聴することができるようになっている。

第4回は、FD研究会などの講演の中で、メンターにも有益なものをコンテンツ化し、指定された期間内に視聴するよう義務づけている。このコンテンツの視聴は、継続メンターを含め、スキルアップを図るため、全メンターに視聴を必須にし、確認テストを受け、合格することを義務付けている。

2.3 インストラクショナルデザイナー研修

サイバー大学では教材の設計・開発においてインストラクショナルデザイン手法を採用しているため、インストラクショナルデザイナー、アシスタント・インストラクショナルデザイナーを専門スタッフとして配置し、教員を支援している。インストラクショナルデザイナー、アシスタント・インストラクショナルデザイナーの業務遂行能力を発展向上させるため、コンテンツ制作センターでは組織的に研修活動を行い、専門スタッフを育成している。

インストラクショナルデザイナーという教育専門職は欧米では確立されているが、日本ではその養成が遅れているため人材不足となっている⁽¹¹⁾。こうした状況からサイバー大学では、アシスタント・インストラクショナルデザイナーという名称を考案し、インストラクショナルデザイナーとアシスタント・インストラクショナルデザイナーとの協働体制を構築している。インストラクショナルデザイナーの主な職務は、1) インストラクショナルデザイン手法を用いた授業の設計・開発を指揮指導する、2) 授業設計が学部の方針、学部コンピテンシーに合致しているか確認する、3) ADDIE モデルにおいて、評価・改善・再実施の適正な循環を誘導する、ことである。アシスタント・インストラクショナルデザイナーの主な職務は、1) 授業の分析・設計段階で、教員の授業設計書作成をサポートし、ガイドラインに基づきその内容を点検する、2) 授業コンテンツ開発段階で、授業設計書の内容が適切に履行されているか確認し、必要に応じて開発担当者などへアドバイスを提供する、3) 授業実施段階で、授業設計書の内容が適切に履行されているかを確認し、必要に応じて指導補助者などへアドバイスを提供する、ことである。このようにアシスタント・インストラクショナルデザイナーは科目単位で教員をサポートし、インストラクショナルデザイナーは全体を点検する役割を担っている。また、インストラクショナルデザイナーは、アシスタント・インストラクショナルデザイナーが適切に授業設計書の内容を点検しているか確認を行っている。このように、有資格者のインストラクショナルデザイナーが経験の浅いアシスタント・インストラクショナルデザイナーの業務をチェックするOJT (On-the-job Training) の組織体制を構築することによって、有資格者のIDer

表8 会議の取り組み

	内 容
2008年度	<ul style="list-style-type: none"> • 授業設計書フォームの改善 • 授業設計書チェックシートの開発 • 授業設計書チェックのフロー作成 • 授業評価アンケートの分析方法 • 授業設計書の事例（ケーススタディ） • 授業評価アンケート改善案について • コンピテンシーとスキルセットの作成方法
2009年度	<ul style="list-style-type: none"> • FD (Faculty Development) コンテンツ制作について • コンピテンシーについて • 学習効果測定について • 授業評価アンケートの見直し • 講義「ファカルティ・デベロッパーのID的基礎とは何か」 • 講義「アンケート基礎」 • メディア選択について

が少数でもインストラクショナルデザインの適切な運用を可能としている。

更に、教育工学の専門家を「技術アドバイザー」として学外より招致し、会議（演習方式）を毎月1回実施している。この会議はインストラクショナルデザイナーとアシスタント・インストラクショナルデザイナーが参加しており、インストラクショナルデザイン及びeラーニングの適正な運用について専門家から助言を得ている。また、この会議では、教員支援・授業改善のツールの開発などにも取り組んでいる（表8）。

2008年度の主な取り組みとして、授業設計書フォームの改善、授業設計書チェックシートの開発を行った。コンテンツ制作時に教員が作成する書類として、2007年度開学時より「コンテンツ計画書」を使用していたが、開発の仕様書としての記述項目に重点が置かれていたため、授業設計書フォームを改善する必要があった⁽¹²⁾。また、アシスタント・インストラクショナルデザイナーは授業設計書が適切に書かれているか点検する役割を担っており、その点検の質が個人の能力で差が出ないように一定の質を保つために、点検時に使用する授業設計書チェックシートの開発を行った。授業設計書フォームの改善やチェックシートの開発には、インストラクショナルデザインの要素を組み込む必要があることから、こうした開発のプロセスを通して、教員を支援する専門スタッフとして必要なインストラクショナルデザインの知識や授業設計書のチェック方法を身につけることができたと言える。開発した授業設計書フォームとチェックシートは、2009年度より使用を開始している。

2009年度の主な取組みとして、コンテンツ制作センターではFD委員会監修のもとFDコンテンツの制作を行った。本章「1.2 VOD方式による研修」で述べたように、FDコンテンツは実際の授業と構成も制作工程も同じになっている。FD委員会と調整をしながら、授業設計書の提案からPowerPointスライドの作成、講義の出演・収録、編集まで全てのプロセスに携わった。通常は教員を支援する立場にあるインストラクショナルデザ

イナーやアシスタント・インストラクショナルデザイナーだが、これらのプロセスを主体的に体験することによって、教員の立場を理解することができる良い機会となった。

こうした取り組みを通して、効果的にインストラクショナルデザインの手法を授業コンテンツの設計・開発に取り入れるとともに、インストラクショナルデザイナー、アシスタント・インストラクショナルデザイナーの能力向上を図っている。

3. グループウェア CUBE (Cyber University Bilateral Exchange) の活用

本学の教職員の情報共有サイトとして、CUBE (Cyber University Bilateral Exchange) がある。ここには、教職員が業務をするうえで、必要な情報が格納されているだけでなく、教職員の情報共有の場としても活用されている。例えば、研修の資料や会議議事録をここから、ダウンロードしたり、業務報告の書類をこのサイトから提出したりしている。このグループウェア上では、オンラインディスカッションを行うことも可能なため、このような機能を、教員間の議論の場としても、今後活用することが考えられる。図5にCUBEのスクリーンショットを掲載する。

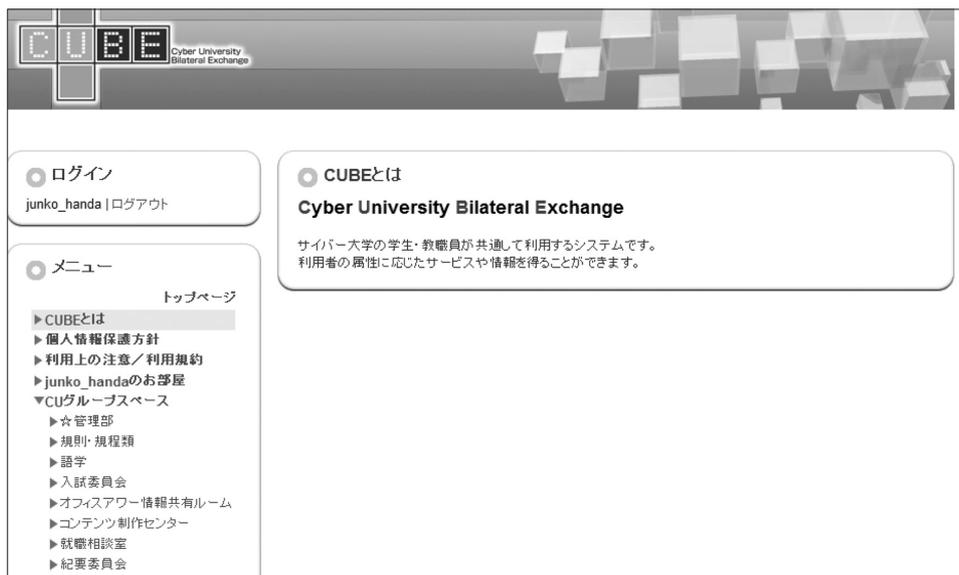


図5 CUBE (Cyber University Bilateral Exchange)

4. まとめ

サイバー大学の教員、メンター、インストラクショナルデザイナーの職能開発について述べた。教員研修は主に講義形式とVOD方式で研修を行っており、特にVOD方式の研修は、知識を得るだけでなく学生の学習環境を体験する機会にもなっていることが特徴である。メンター研修は、業務を効率的に行うためのアクションプランの作成やメンタリングのシミュレーションなどより実践的なスキルを身に付ける内容となっている。また、

インストラクショナルデザイナーは、OJT と演習形式の会議を通してスキルアップを図っている。サイバー大学の特徴として、インターネットのみで教授活動を行うこと、それを支えるメンターやインストラクショナルデザイナーといった専門スタッフがいることがあげられる。こうした特徴が反映された特色ある研修となっている。

注および引用文献

- (1) 文部科学省 (2009) 大学における教育内容等の改善状況について http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/03/1259150.htm (参照日 2010. 3. 24)。
- (2) Darling-Hammond, L., Hammerness, K. with Grossman, P., Rust, F., & Shulaman, L. (2005). The design of teacher education programs. (pp.390-441). In L. Darling-Hammond, & J. Bransford, (Eds.). *Preparing teachers for a changing world: What teachers should learn and be able to do*. San Francisco, CA: John Willey & Sons, Inc.
- (3) Freese, A. R. (1999). The role of reflection on preserve teacher's development in the context of professional development school. *Teaching and Teacher Education*, 15 (8), pp. 895-909.
- (4) 文部科学省 (2009) 大学における教育内容等の改善状況について http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/03/1259150.htm (参照日 2010. 3. 24)。
- (5) メディア教育開発センター, 「ICT 活用による教員の教育力向上の取組 (FD) に関する調査報告書」, メディア教育開発センター, 2008。
- (6) 小野邦彦, 後藤幸功, 半田純子, 本間千恵子, 遠藤孝治, 鈴木克明, 「サイバー大学の e ラーニングに関する質保証の取組」, 日本教育工学会第 25 回全国大会講演論文集, 2009, pp. 501-502.
- (7) 大学セミナー・ハウス『大学力を創る: FD ハンドブック』, 大学セミナー・ハウス, 1999, p. 17
- (8) 半田純子, 新垣円, 齋藤長行, 野崎昭弘, 「サイバー大学における FD 研修コンテンツ開発の取組み」, 日本教育工学会第 25 回全国大会講演論文集, 2009, pp. 847-848.
- (9) 文部科学省 (2009) 大学における教育内容等の改善状況について http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/03/1259150.htm (参照日 2010. 3. 24)。
- (10) 新垣円, 半田純子, 本間千恵子, 齋藤長行, 鈴木克明, 「FD コンテンツによるオンライン授業参観のすすめ」, 日本教育工学会研究報告集 09 (5), 2009, pp. 23-26.
- (11) 鈴木克明, 「e-Learning 実践のためのインストラクショナル・デザイン」, 日本教育工学会論文誌, 29 (3), 2005, pp. 197-205.
- (12) 遠藤孝治, 後藤幸功, 半田純子, 本間千恵子, 小野邦彦, 鈴木克明, 「サイバー大学の授業コンテンツ制作に係る『授業設計書』フォームの活用状況」, 日本教育工学会第 25 回全国大会講演論文集, 2009, pp. 847-848.